指導主事だより

なんだか　うれしい

教育委員会

相談時間等　月・水・金曜日
●立科小学校/午前９時～午前11時30分
電話 0267－56－3131（呼）
●立科中学校／午後２時～午後５時
電話 0267－56－1076（呼）
●立科町児童館／
午前 11時50分～午後１時40分
電話 0267－56－0303（直通）
〔担当　指導主事　中島 一彦〕

あなたが　かわり　わたしが　かわるということ

１年生道徳の教科書に「きんのおの」というイソップ物語が取り上げられています。
手をすべらせ、池の中に斧を落としてしまい、途方に暮れる木こり。そこに突然現れる池の神様。金、銀の斧を差し出し、「失くしたのは、これか」と問いかけます。「いいえ、違います」と答える木こり。

長野市の小学校の教室でO先生が子どもたちと「金のおの」を読み合い「正直」という価値についての考えを探求していました。O先生は、

「なんで　きこりさんは、“金の斧は自分のじゃない”って言えたのかな？」と問いかけ、話し合いを促していきます。

○　正直に言えば　褒められる　○　正直に言えば、きんの斧がもらえるかもしれない

正直は得をし、欲張りは損をする・・最初は、こんな発言が続きます。しかし資料を読めば、すぐに分かることは、子どもたちの心を頑(かたく)なにしていきました。発言が少しずつなくなっていくのです。

そんな中、H君が手を挙げました。

「お父さんのを受け継いだ・・お父さんの斧を引き継いだ。だから・・・嘘をつかなかった」

こう発言をしたH君。しかし、H君の考えが「正直」とどう結びつくのか明確にできないまま、H君の考えを吟味できないまま授業が終わってしまったのです。O先生もまた「損得」と結びつくことが「正直の価値」と思い込んだまま、その深さを見ることができなくなってしまっていました。

O先生は同僚との見返しを通してH君の発言の重みを再認識していくのです。

中島先生、授業のことで、どうしてもお話したいことがあるんです。H君、「お父さんの斧を受け継いだ」の発言のH君のことを覚えておられますか？　あの授業での、H君の発言のことをお母さんに伝えたんです。

「やんちゃなHで、家ではすぐに大声を出したり、兄に手をあげてしまったりする」そんなH君に手をやいていたお母さんの思いもあるのですが、授業で自分の生き方考え続けるH君を伝えたんです。そうしたら涙を流して喜んでくださったんです。

そして、次のような話を教えてくださいました。

「おじいちゃんが、高齢で、形見分けのような意味で、自分の父親におじいちゃんが大切にしていたものを手渡す場にいて、祖父と父のモノに込める思いを感じたみたいです」そんな内容を伝えてくださったO先生。

私が「正直」という価値を「損得」だけでなく、もっと深い生き方として考えていたら・・・。

そんな思いも涙声になりながら話してくださったO先生。

考え続けるH君。「正直」という価値を「損得」で考えるのではなく、物を大切にする祖父の姿と重ねながら、物に命が宿ることに思いを巡らしていくH君。「正直に言える」ということ」は、物を大切にする暮らしから生まれてくるのではないか。そんな思いに目を向けていくH君。

そう思えた時、子どもたちの探求に添えきれなかった力不足を感じたO先生。

同時にH君の考えに深い共感を向けていくO先生の「教師になっていく」確かな歩みが見えてくるのです。 子どもたちと共に、O先生も「正直」という生き方の探究し続けているのです。H君の取り組みを心に刻みながら、その探究をお母さんに伝えたくなっていくO先生。そして、O先生の話に涙を流して聴き入るお母さん。その内容に我が子の暮らしに思いを馳せたであろうお母さん。

子育ての渦中にある日々は苦悩の連続なのかもしれません。苦しいけれど、後悔もあるけれど、決して我が子を愛することから逃れることのない我が子を

思う母の思い・・・・お母さんの涙の意味が見えてくるのです。

O先生の温かく語る、我が子の何かを乗り越えようとする学びの姿。

□何かを乗り越えようとする我が子の生き方、
□そこに添いながら我が子と共に生きてくれるO先生の姿。

我が子と、そして我が子と共に歩み続けるO先生に触れ、お母さんは、どれほどに励まされたことでしょう。

学ぶということ、それは、
働きかける私が働きかけられること
そのようにして、私が変わり、あなたが変わること
そして　みんなが元気になるということ・・
なのだと思わされるのです。